

- はじめに

この度は、Process Running Monitorをご利用いただき、誠にありがとうございます。

PC内のプログラムの稼動状況を監視するためにProcess Running Monitorを開発致しました。

本システムは監視する各PCにprmクライアントソフトをインストールし、管理情報を格納する管理マシンにprmサーバーソフトをインストールすることにより、稼動したプロセス名を定期的を取得し、ネットワーク経由でサーバー（管理マシン）に集積し、その情報の表示、印刷を行うプログラムです。未知、不審なプログラム、ゲーム等業務に無関係、或いは許可されていないプログラムの稼動を検知するのに有用です。

タスクマネージャーは「今」稼動しているプロセスを表示するのに比べ、Process Running Monitorは「**今までに**」稼動したプロセスも対象とし、表示します。

<Readme内目次>

● 留意点	2
● 取得、表示情報	2
● 動作環境	3
■ サーバー	3
■ コンソール	3
■ クライアント	3
■ ネットワーク	3
● 梱包物一覧	4
● インストール	6
■ .NET Frameworkのインストール	6
■ サーバー	6
■ コンソールプログラム	7
■ クライアント	8
● アンインストール	9
■ サーバー	9
■ コンソールプログラム	9
■ クライアント	9
■ HeloWorld	9
● 試用制限	10
● その他	10
● 変更履歴	10
● 連絡先	11
● (特記)	11

- 留意点

Process Running MonitorのクライアントプログラムはWindowsにログインしていない状態で稼働状況を収集いたしません。

また、稼働状況の収集開始はProcess Running Monitorのクライアントプログラムが稼働してからとなります。

Process Running Monitorのクライアントプログラムはログインした後、自動的に起動されます。

スタンドアロン型のProcess Running Monitor Personalも用意してございます。

- 取得、表示情報

- 稼働検知日時

- プロセスを稼働したユーザ名

- プロセスが稼働されたマシン名

- 稼働したプロセス名

- プロセスに対応したプログラム名（例：notepadの場合、メモ帳など）

- その他

Process Running Monitorの終了やUninstall情報等

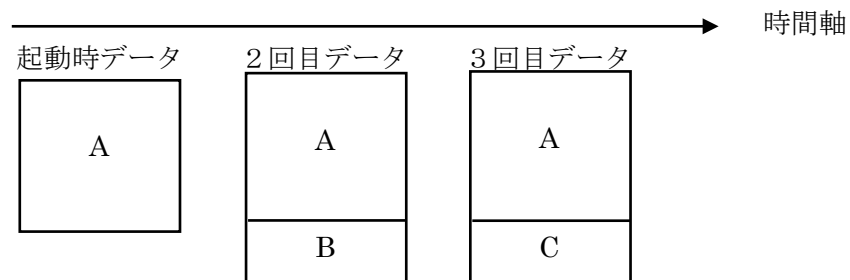
- 情報取得パターン

- ◆ 監視開始後、複数回稼働しても最初の稼働のみを記録

- ◆ 監視開始後、複数回稼働した場合稼働毎に記録

- 監視開始直後のデータの取り扱い

Process Running Monitorのクライアントプログラムが起動された時点で全ての稼働プロセス名を取得しますがそのプロセスを情報取得の対象とするか、初期状態はオペレーティングシステム関連や自動起動のプロセスが大半であるため、それらを情報取得の対象とせず、その後起動された差分だけを情報取得の対象とするかを指定出来ます。



- ◆ 対象としない場合

BとCのプロセスが情報取得の対象となります。

- ◆ 対象とする場合

AとBとCのプロセスが表示の対象となります。

- 動作環境

- サーバー

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
 - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- コンソール

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
 - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- クライアント

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
 - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- ネットワーク

- ◆ ネットワークを経由してサーバーとクライアントが交信可能な環境にあること。
(pingコマンド等で確認して下さい)
 - ◆ 指定したポートが本システムのみで使用可能であり、そのポートを介してデータの送受信が可能であること。

- 梱包物一覧

- readme.pdf
本ファイル

- ServerComponent
サーバーのインストールコンポーネント

クライアントから送信されてきた情報をデータベースに格納します。
また、データベースに格納された情報の表示や各種設定を行うコンソールプログラムも含まれています。
本システムでは1つのライセンスで1台のPCへのみサーバープログラムをインストールすることが出来ます。

- ◆ prmsServerSetup.exe
サーバー用セットアッププログラム
コンソールプログラムもインストールされます。

- ConsoleComponent
コンソールプログラムのインストールコンポーネント

データベースに格納された情報の表示や各種設定を行います。
本システムでは1つのライセンスで複数のPCへコンソールプログラムをインストールすることが出来ます。
サーバープログラムをインストールした時点でコンソールプログラムはサーバーにインストールされますがサーバー以外のPCにもコンソールプログラムをインストールする場合、こちらをご使用下さい。

- ◆ prmConsoleSetup.exe
コンソールプログラムセットアッププログラム

- ClientComponent
クライアントプログラムのインストールコンポーネント

プロセスの稼働状況等を監視してその情報をサーバーに送信します。
本システムでは1つのライセンスで複数のPCにクライアントプログラムをインストールすることが出来ます。

- ◆ prmClientSetup.exe
クライアント用セットアッププログラム
- ◆ prmClientInit.ini
クライアント用初期値設定ファイル

- HelloWorld
Microsoft .NET Frameworkをインストールするためのダミープログラムのインストールコンポーネント
 - ◆ setup.exe
HelloWorldのセットアッププログラム
 - ◆ HelloWorldSetup.msi
HelloWorldのセットアップデータWindows 7では既にMicrosoft .NET Frameworkはインストールされていますので本コンポーネントは通常は必要ありません。

- prmRetrieverの常駐登録.pdf

prmRetrieverの常駐への登録、常駐からの削除に関する記述

- INIファイルパラメータ設定.pdf
クライアント用初期値設定に関する記述
- Process.csv
コンソールプログラムで各種情報を表示する際に使用するプロセスとプログラム名の対応データサンプル
メモ帳等で追加、編集出来ます。
- Except.txt
クライアントから送られてくるプロセス情報から、データベース格納の対象から除外するプロセス名を定義したTextファイルのサンプル
メモ帳等で追加、編集出来ます。

● インストール

■ .NET Frameworkのインストール

Process Running Monitorが稼動するためにはMicrosoft .NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。Microsoft .NET Frameworkがインストールされているかどうかを確認するためには「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」で表示される、《現在インストールされているプログラム》の一覧で確認することが出来ます。

Microsoft .NET Frameworkがインストールされていない場合、Print Document Monitorの各コンポーネントをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールする必要があります。インストールは以下の方法で行えます。

尚、Windows 7では既にMicrosoft .NET Frameworkはインストールされていますので本処理は通常は必要ありません。

1. MicrosoftダウンロードセンターよりMicrosoft .NET Framework 2.0とMicrosoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Packをダウンロード、又は他の方法で入手し、インストールする。

または

2. インターネットからMicrosoft .NET Frameworkをダウンロード可能なネットワーク環境で、梱包物に含まれているHelloWorldのセットアップを実行する。

HelloWorldのインストーラはMicrosoftのインストーラを使用しています。Microsoftのインストーラはプログラムのインストールに先立って、Microsoft .NET Frameworkをダウンロードしてインストールする必要がある場合、ダウンロードセンターへ接続します。そこからダウンロードが出来ますのでダウンロードし、Microsoft .NET Frameworkをインストールして下さい。その場合は、HelloWorldはインストールされません。HelloWorldは「Hello World!」と書かれた画面を表示するだけのプログラムなのではインストールされなくても問題ありませんが、HelloWorldのインストールが必要な方は再度HelloWorldのセットアップを実行して下さい。

Process Running Monitorの各プログラムはインストール時に初期設定を行う必要があります。そのため、インストールの途中でシステムの再起動が行われると正しくセットアップが完了しない恐れがあるため、Microsoftのインストーラは使用しておらず、Microsoft .NET Frameworkを自動的にインストールする手法はとっていません。

■ サーバー

1. ServerComponent内のprmServerSetup.exeを実行して下さい。
2. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
3. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
4. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
5. コンポーネントの選択画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
6. プログラムグループの指定画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
7. 追加タスクの選択画面が表示されますのでショートカットの作成を指定して（通常はそのまま問題ないです）《次へ》をクリックして下さい。
8. インストール準備完了の画面が表示されますので《インストール》をクリックして下さい。
9. サーバーセットアップのパラメータ設定画面が表示されますのでポート番号を指定して《設定》をクリックして下さい。インストールが完了します。
10. バージョンアップ等の再インストールで再インストール以前に収集した情報を引き継ぐ場合、他のドライブ、またはディレクトリにコピーした“prmDatabase.prm”を下記ディレクトリに上書きコピーして下さい。

- Windows 2000/XPの場合

All UsersプロファイルのアプリケーションデータがCドライブにある場合
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data
¥ProcessRunningMonitor

● Windows 7の場合

C:¥ProgramData¥ProcessRunningMonitor

その際、上書きコピーした“prmDatabase.prm”を右クリックして、プロパティを開きセキュリティタブをクリックして下さい。ユーザ権限や他のコンピュータからコンソールプログラムを使用してデータベースの内容を表示する場合、“Everyone”のアクセス許可が「フルコントロール」になっていないとリダイレクションされたデータベースにアクセスし、正しい情報を表示できない場合がありますのでそのアクセス許可を「フルコントロール」にして下さい。

方法は「グループ名またはユーザ名」の追加ボタンをクリックし、「選択するオブジェクト名」に“Everyone”を入力し、「OKボタン」をクリックします。

その後、Everyoneのアクセス許可の「フルコントロール」のチェックボックスを「許可」にし、「OKボタン」をクリックします。

新規インストール、再インストールでも古いデータを使用せず新規に情報収集を行う等、それ以外の場合は本項10の作業は必要ありません。

11. prmRetrieverを常駐プログラムとしてタスクスケジューラに登録し、システムを再起動して下さい。

登録方法は「prmRetrieverの常駐登録.pdf」を参照して下さい。

12. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにサーバーコンポーネントをインストールした場合、項番9のパラメータ設定でエラーとなりますがそのまま処理をインストールを完了させて下さい。Microsoft .NET Frameworkを後からインストールし、「スタート」ボタン→「全てのプログラム」→「prmServer」→「ポート番号再設定」で《prmServerパラメータ再設定》を起動し、ポート番号を設定し、項番11によってタスクスケジューラに登録していない場合は登録し、システムを再起動して下さい。

■ コンソールプログラム

サーバープログラムをインストールした時点でコンソールプログラムはサーバーにインストールされますがサーバー以外のPCにもコンソールプログラムをインストールする場合、以下の手順で行います。

1. ConsoleComponent内のprmConsoleSetup.exeを実行して下さい。
2. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
3. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
4. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
5. コンポーネントの選択画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
6. プログラムグループの指定画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
7. 追加タスクの選択画面が表示されますのでショートカットの作成を指定して（通常はそのままです）《次へ》をクリックして下さい。
8. インストール準備完了の画面が表示されますので《インストール》をクリックして下さい。
9. セットアップウィザードの完了画面が表示されますので《完了》をクリックして下さい。インストールが完了します。
10. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにコンソールプログラムをインストールした場合、コンソールプログラムの実行時にエラーとなりますのでMicrosoft .NET Frameworkを後からインストールして下さい。

■ クライアント

1. ClientComponentのコンポーネントを使用して下さい。
2. prmClientInit.iniを変更して以下の初期値を事前に設定出来ます。
 - サーバーのIPアドレス (prmIPAddress)
 - サーバーのポート番号 (prmPortNo)これらの値はメモ帳などで変更出来ます。
これらの初期値を使用する環境に合わせて事前に設定し、クライアントインストールセットを各ユーザに配布する、或いはユーザ全員がアクセス出来るネットワーク上の共通フォルダに格納し、それを使用してインストールすることにより、クライアントインストール時にこれらの値を変更する必要がなくデフォルトのままインストールすることができ、多数のクライアントへのインストール作業の効率が向上します。
3. prmClientSetup.exeを実行して下さい。
4. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
5. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
6. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
7. 《次へ》をクリックして下さい。
8. クライアントインストールの設定内容が表示されるので確認して《次へ》をクリックして下さい。
9. セットアップが開始されます。
10. 初期設定フォームが表示されるので正しい値を入力して下さい。
 - prmRetriever接続モード：サーバーとの接続モードを選択します。
 - Online・・・サーバーと接続します。
 - Offline・・・サーバーに接続せずに各種データをテンポラリファイルに保持し、保持したデータはOnlineに変わったときにサーバーへ送ります。
 - prmRetriever IP Address又は ホスト名：
prmserverのIP Address 又は ホスト名を指定して下さい。
(Pingコマンドでエラーにならない情報を指定して下さい。)
 - ポート番号：ポート番号を指定して下さい。
11. インストーラを終了し、再起動してprmWatcherを起動して下さい。
12. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにクライアントコンポーネントをインストールした場合、項番10のパラメータ設定でエラーとなりますがそのまま処理をインストールを完了させて下さい。Microsoft .NET Frameworkを後からインストールし、「スタート」ボタン→「全てのプログラム」→「prmClient」→「prmClientパラメータ設定」で《smClientパラメータ設定》を起動し、各パラメータを設定し、システムを再起動して下さい。尚、この場合、インストールに使用したクライアントコンポーネントのINIファイルをその場所から読み込みますので、本作業が完了するまで削除、移動は行わないで下さい。

- アンインストール

- サーバー

1. バージョンアップ等再インストールを行うためにアンインストールを行い、それまでに蓄積した各種情報を引き継ぐ場合は、各種情報を格納している“prmDatabase.prm”を他のドライブ、またはディレクトリに移動ではなくコピーして下さい。
 - Windows 2000/XPの場合
All UsersプロファイルのアプリケーションデータがCドライブにある場合
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data
¥ProcessRunningMonitor
 - Windows 7の場合
 - C:¥ProgramData¥ProcessRunningMonitor
(移動はprmRetriever.exeが起動されているため動作しない場合があります)
2. プログラムの追加と削除からProcess Running Monitor, Serverのアンインストールを行って下さい。
3. prmRetriever.exeをタスクスケジューラに登録した場合はタスクスケジューラから削除して下さい。
削除方法は「prmRetrieverの常駐登録.pdf」を参照して下さい。

- コンソールプログラム

プログラムの追加と削除からProcess Running Monitor, Consoleのアンインストールを行って下さい。

- クライアント

プログラムの追加と削除からProcess Running Monitor, Clientのアンインストールを行って下さい。

- HelloWorld

プログラムの追加と削除からHelloWorldSetupのアンインストールを行って下さい。

- 試用制限

本システムは最初のご利用から30日間を試用期間として全ての機能を通常通り使用出来ますが継続して御利用になられる場合は、ライセンスキーを取得して下さい。ライセンスキーはプログラム起動時に1度入力すれば以降継続利用が可能になります。

尚、ライセンスキーの入力後、アンインストールし、再インストールした場合は再度ライセンスキーの入力が必要になる場合もあります。

- その他

- 記載されている製品名、商品名、社名は一般に各社、版權所有者の商標または登録商標です。
- 本ソフトウェアによってお使いのシステム又はその他にいかなる問題や障害が起きましても弊社、作者は責任を負いません。
- 本ソフトウェアにバグ等の不具合が発見されても、弊社、作者はバージョンアップの責任を負いません。
- 本ソフトウェアの動作の保証はありません。
- 本ソフトウェアの仕様は予告無しに変更されることがございます。
- 本ソフトウェア（ドキュメント、データを含む）の著作権は作者及びSynergic Inc. が保有します。

- 変更履歴

- Ver. 1.0.0
新規。
- Ver. 1.1.0
指定したプロセスを監視対象から除外する機能を追加した。
- Ver. 1.1.0Build2
readme(本ファイル)に追記を行った。
モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.1.0から本バージョンへ入れ替える必要はありません。
- Ver. 1.1.0Build3
ヘルプの「その他」に「雛形となるプロセス名の抽出方法」という項を追加した。モジュールの変更は行っていないので特にVer.1.1.0またはVer. 1.1.0Build2から本バージョンへ入れ替える必要はありません。また、本追加内容につきましては弊社ホームページ「Process Running Monitor」の項でも確認いただけます。
- Ver. 1.1.1
データを一時保管するワークファイルの使用方法を改善した。
クライアントの変更ですのでサーバー、コンソールはVer1.1.0、Ver. 1.1.0Build2、または、Ver. 1.1.0Build3から本バージョンへ入れ替える必要は特にありません。
尚、バージョン番号を本バージョンに合わせるため、サーバー、コンソールとも再ビルドしています。
- Ver. 1.1.2
プロセスに対応するプログラム名称登録のチェック方法を修正した。
- Ver. 1.1.2Build2
HELPファイル内のINIファイルパラメータ設定の項を同封の「INIファイルパラメータ設定.pdf」内容と一致するように修正した。
モジュールの変更は行っていないので特にVer. 1.1.2から入れ替える必要はありません。
- Ver. 1.1.2Build3
Readme(本ファイル)に目次を追加した。
モジュールの変更は行っていないので特にVer. 1.1.2Build2から入れ替える必要はありません。
- Ver. 1.1.2Build4
Readme(本ファイル)の記述を修正。
モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.1.2Build3から入れ替える必要はありません。

■ Ver. 1.1.2Build5

コンソールプログラム (ConsoleComponentでインストールするプログラム) の初期起動時のデータベースダミーパスを実在するパス (ルートであるC:¥)に変更。

コンソールプログラムのパラメータのみの変更ですのでサーバー及びクライアントはVer. 1.1.2Build4から入れ替える必要はありません。

また、コンソールプログラムもモジュールの変更は行っていないので特にプログラムの入れ替えは必要なく、コンソールプログラムをインストールしたディレクトリ (通常はC:¥Program Files¥prmConsole) 内のprmConsole.exe.configをメモ帳等で開き、

<add key="ServerPath" value="¥¥127.0.0.1¥prmServer" />を

<add key="ServerPath" value="C:" />に変更するだけで対応できます。

■ Ver. 1.1.2Build6

MicrosoftダウンロードセンターからのMicrosoft .NET Frameworkのダウンロード方法が変更になったため、それに合わせてReadme(本ファイル)の記述を変更。

モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.1.2Build5から入れ替える必要はありません。

● 連絡先

有限会社シナジック

e-mail > info@synergic-s.com

URL > http://www.synergic-s.com

● (特記)

ダウンロードサイト、雑誌の付録等で本ソフトウェアを入手された方はバージョンが古い可能性がありますので弊社ホームページでバージョンをご確認下さい。